

HIKARI SONG GIFT vol.3

活動報告



HIKARI SONG GIFT とは

この活動をはじめたのは、東日本大震災が大きなきっかけとなりました。
自分の育った宮城県の変わり果てた姿を見て、何かしたいと思いました。
同時に自分の無力さを感じたことが、今の活動の原点になっています。
また、私がネパールに関わるきっかけとなったのは、2015年にネパールで大地震
が起き、その時母がネパールに住んでいたからでした。
あの時感じた無力感。同じ被災国としてできることはないか？
との思いが私を突き動かししました。
そして、HIKARI SONG GIFT というプロジェクトをネパール大震災直後から立ち上
げました。
ネパールでは特に電力不足が深刻な問題となっていました。

“HIKARI”は、同じ震災を経験した日本人が、ネパールを想い、再生の願いを
込めた希望のヒカリ。

“SONG”は、言葉なくして心を通じ合う事のできる音楽。

“GIFT”は、立場を越えて分かち合う想いです。

これまでに日本でのライブ活動などを通して、協力して下さった義捐金で483個(1
回目295個、2回目100個、3回目88個)の持ち運び可能なソーラーランタンを届け
ることができました。

ランタンは、チャリティフェスティバル中、キャンドルとして、日常生活では電気の代
わりとして使用をしています。

おかげさまで、HIKARI SONG GIFTは、地元の方々と共に協力し、創り上げていく
イベントへとして発展するまでとなりました。



HIKARI SONG GIFT これまでの活動

2016年4月25日 HIKARI SONG GIFT Vol.1



世界遺産バクタプールのダルバール広場で、5000人以上もの地元の人々がチャリティフェスティバルに参加。
ライブ終了後、地震で亡くなった方々に祈りを捧げました

2017年4月25日 HIKARI SONG GIFT Vol.2



カトマンズ、タパタリのスクンバシで開催。音楽で一つになれた事を大きく実感しました。
地元の方達とランタンの光と共に音楽を共有している時間は、皆が心を開き、そこに立場はありませんでした。

PROFILE

佐野碧(SANO AOI)

仙台出身シンガーソングライター



幼少期より世界各国を訪れ、異文化に触れる。

大学卒業後、上京。歌手活動に専念する。

東日本大震災で、ふるさと仙台の変わり果てた姿を見て、音楽を通しての支援活動を開始。

2015年には、同じ震災を経験した私たちだから出来ることとして、ネパールに、ヒカリと音楽を届ける「HIKARI SONG GIFT」を立ち上げる。

毎年現地ネパールで主催するチャリティーフェスティバルには、延べ5000人以上が参加。

「同じ悲しみと悲しみが掛け合わさったとき、喜びに変わる」をテーマに、年々その活動は広がりを見せている。

彼女のソウルフルで温かみがある歌声は、聴いた誰もが涙し、一人一人の心の拠り所となっている。

【最近の主な活動】

・Jリーグ国際テーマソング「千の灯火～shanti～」採用 (2016/03)

・プロ野球 楽天ー阪神戦 国家斉唱(2016/6)

・2ndアルバム「NAMIDA」をリリース
全国ツアーを開催(2017/10)

・スペースシャワーTV 「スペシャのヨルジュウ」出演 (2017/10)

・株式会社イチイとタイアップ曲「+LIFE」を発表(2018/03)

・女子プロ野球開幕戦 埼玉アストライアー京都フローラにて、亡き監督に捧げた曲「夢の星」を歌い上げる (2018/04)

・ネパールのTV HIMALAYA TV「GOOD NEWS」に、HIKARI SONG GIFTのこれまでの活動が特集として放映(2018/05)

第3回 HIKARI SONG GIFT の開催を決意する

これまで第1回、第2回とHIKARI SONG GIFTの活動が続けてきました。続けてこられたのは、周りの方々の御協力があったからこそでした。ネパールを訪れる度、文化的な違いに苦しみ大変だと感じたことが多々ありました。それでも第3回目を開催する決意ができました。音楽とは、違いを越えて魂で繋がることができるということを、この活動を通じて実感したからです。

そして、何ができるかを再び模索しました。

これまでの活動を通して、実感してきた事を大切にしたいと感じました。

私はネパールの自然や人が好きです。しかし、ネパールの方々に将来何をしたいかと聞くと「海外に住みたい」との返事が返ってくる人が多いのが気になっていました。貧しい環境の中で、ネパールの子供たちの多くは、親の仕事を手伝ったり、教育も受けることなく働いているのが実状です。海外に目がいくのも無理はないとも思います。

私は、ネパールで感じた素晴らしさを、良い意味で「よそ者」だからこそ地元の方達に伝えられると思いました。音楽を通して分かち合うことができるのではと思いました。

そんな中、ネパール人のボランティアスタッフや、私の母親からチトワン郡にある標高1200mに位置するチェパン村のことを聞きました。

その村からは、とても綺麗な星空が一望できるとのことでした。

そして、まだ電気が通ってないとのことでした。

村には115人の生徒が通う小学校があるそうです。

その小学校で星空ライブや星の授業も取り入れていきたいと思いました。

音楽の授業で想像することを、双眼鏡を使った宇宙の授業で未知の世界が広がっていくことを、そして何より、普段何気なく見ている景色が、実は素晴らしく可能性に満ちたものだという事を、村の子供たちと分かち合うことができたかと思いました。



様々なイベントや、ライブを通して皆様にご協力を頂きました。
皆様の温かいお力沿えがあったからこそ、第3回目のHIKARI SONG GIFT を行う
事が出来ました。



2017年8月16日 東京ネパールフェスティバル

2017年9月9日 日本ネパール友好協会ネパール
フェスタ

2018年3月18日 仙台HIKARI SONG GIFT vol.3
前夜祭ライブ

2018年4月10日 東京HIKARI SONG GIFT vol.3
前夜祭ライブ

2018年4月14日 福岡ネパールフェスティバル



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月16日 ネパールへ出発

皆様の想いに溢れたソーラーランタンと共に日本を旅立ちました。



2018年4月18日

バンコクからネパールへ向かう飛行機は、出発時間が大幅に遅れ、予定より半日遅れでカトマンズに到着。

1年ぶりのカトマンズは、雨が上がったばかりで、雨の匂いが残っていました。その日は火曜日。ガネーシャの日です。

ガネーシャ寺院にお祈りに行ってきました。

2015年のネパール地震で壊れたお寺は、未だ修繕されていない状況でした。



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月18日

第1回HIKARI SONG GIFTを行った、世界遺産であるバクタプールのダルバール広場へ行きました。この町は地震で大きな被害を受けたところで約300人の方が亡くなりました。

ランタンを配布したキャンプに足を運ぶと、まだテント生活をされてる方がいました。数はかなり減っていました。

まだまだ地震の跡が残っていましたが、少しずつ復旧している様子でした。



2018年4月19日

HIKARI SONG GIFTの活動について、ナガリック新聞(Nagarikdainik newspaper)より取材を受けました。



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月19日 準備 買い出し

現地の仲間が、食糧や必要なものを買い出し。

ソーラーランタンの充電も完了。

準備をしながらも不安を抱えていた、と現地の仲間は話をしてくれました。

例えば、チェパン村は、村といえども家が隣接しておらず、一軒、一軒がとても離れています。本当に村の方々は集まって来てくれるのだろうか。などなど、心配は減るどころか増えていきました。

それでも、笑顔と会いたいから。出発です。



2018年4月20日 チェパン村へ

今回共にイベントを作り上げる仲間と合流。



通訳＆MC担当 野津治仁さんと
ヨガインストラクター勝又允莉さん



ソーラーランタンキットの授業担当
島村守彦さん

HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月20日 チェパン村へ

早朝、フェスティバルの開催地であるチェパン村へ出発。カトマンズからバスに揺られて約2時間。道中では、なんと車が崖から落ちていたり、横転していたりと信じられない光景が続き、緊張感が増していきました。

行けるところまでバスで入り、そこから河原、山道へと進みます。強い日差しの中、崖や細いトラバース道などを突破して、歩くこと約4時間。

さまざまな困難を乗り越えて、無事にチェパン村に到着しました。



2018年4月20日 学校で授業(青空ヨガ)

村に到着してからは、子供たちとの勉強会の準備を始めました。

授業1限目は、勝又允莉さんのヨガからスタートです。

身体と心を開いてゆき、どんどん笑顔が増え、みんなとってもとっても良い表情をしていました。私も身体を共に動かして楽しかったです。



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月20日 学校で授業(自作ソーラーランタン)

その後、島村守彦さんチームによる、実際にソーラーランタンを作る授業。
電気の無いこの村で、ソーラーランタンキットを使い、子どもたちが、自分自身の手でソーラーランタンを完成させました。そのとても誇らしげな顔は、たくましかったです。



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月20日 学校で授業（星空授業）

最後は星空の授業。

今回星空をテーマにしたのは、IT企業社長のお話がきっかけでした。幼い頃、お母さんに買ってもらった一台の望遠鏡のお話です。

「望遠鏡を覗いた時、今見ている星は、何百、何千万年光年も前のヒカリなんだと体感したときに、未来の可能性を見出した。今放たれている光は未来へと続いている。」このお話を聞いて、私自身が感動しました。そして、星空を使って何か子どもたちと分かち合いたいと思い、授業をすることになりました。

通訳を野津治仁さんにしていただき、授業は展開。

みんなで星空の勉強をして、日本からのプレゼントとして双眼鏡を渡し、外に出て実際に子どもたちと星空を見ました。

こんな素晴らしい星空がある場所にみんないるんだよー！って私たち日本人だからこそ伝えられることも出来たのではないかと思います。

星空を双眼鏡で覗いて

子どもたちのわー！おー！見えた！驚きの声。

チェパン村、満天の星空の下で、響く感動の声は何よりも嬉しかったです。



星の授業前に、東北の四季、東日本大震災から現在の東北の映像を見る生徒たち
映像提供:佐々木賢一さん



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月20日 学校で授業（星空授業）



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月21日 フェスティバルの朝

朝、Achyut ghimireさんによるダンスセラピー。ヨガに近い、少し激しめのダンスをしました。身体にある6箇所の関節を柔らかくしながらのダンス。山の上でのダンスは、澄んだ空気を吸いながら、とても気持ち良かったです。



準備運動を終え、HIKARI SONG GIFTフェスティバルの準備。

音響やステージを作ってくれた中村雄紀さん。

ステージの装飾は、全て山にある草木を使用しました。大自然の中、ステージもその一部になったかのような素敵な空間に。

途中、音響用ケーブルが足りないというハプニングが起きました。山にはもちろんケーブルは売っていないし、来た山道を何時間もかけて下山するわけにもいかず、困惑。普段なら簡単に手に入るものが入らないという状況下、一つ一つの物の大切さを改めて実感しました。

そして、みんなが知恵をしぼって、ケーブルなしでもできるステージが創り上げられました。



村の方々と共にステージを自然のものを
使って製作中の中村雄紀さん

HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月21日 フェスティバル オープニングセレモニー

村の人々が、集まってきています。そして、現地の方によるオープニングセレモニーが始まりました。私たち日本人やネパールの現地で協力して下さってるSaino nepalが表彰されました。

今回届けることができた88個のソーラーランタンは、日本のみなさんの気持ちだということをお伝えし、日本とネパールが少しずつ繋がって行きます。

チェパン村の方による歓迎のダンスや歌も披露していただき、本番前に大いに盛り上がりました。



開会の言葉

Saino nepalのDinesh humagainさん



校長挨拶

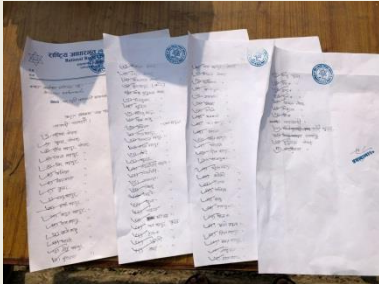
Santosh ghimireさん



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月21日 村の方々へソーラーランタン配布

オープニングセレモニーの後、1世帯に1つのソーラーランタンと島村チームからの文房具を渡しました。お名前を読み上げ、おひとりおひとりに…。現地の方々と共につくるフェスティバルがいよいよ始まります。



チェパン村のソーラーランタン配布リスト



村の方々のお名前を読み上げる
Saino nepalのBiju gwayamaruさん



ソーラーランタンの使い方を説明中
Saino nepalのRaju man maharjanさん

HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月21日 フェスティバルいよいよ本番！

HIKARI SONG GIFT vol.3が始まりました。

通訳、MCの野津治仁さんがネパール語で今回の趣旨などを村の方々に伝え、イベントはスタートしました。最初はチェパン村の生徒によるダンスや歌。

とても美しい現地の衣装が更に華やかな空間に。



シンガーのSumitra khadkaさん

日本からは、シンガー小出侑佳さんがネパールの歌を披露。みんな笑顔になって、村の方々から自然と声があがりました。



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月21日 フェスティバル 音楽で繋がってゆく

徐々に陽は落ちて、私の歌に移りました。

チェパン村の方々は、カトマンズの方々とは違い、普段いわゆる外国人と接点がないため、特にシャイな方が多かったです。そんな村人も、少しずつ慣れてきて一緒に歌い、踊りだす。その笑顔は、本当に素敵でした。学校創立18年。初めての音楽イベントとなりました。



左:カトマンズの記者 Arjun pakhrinさん



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月21日 フェスティバル 想いがヒカリに変わる

ネパール大地震の後に作った「千の灯火～Shanti～」を歌った時、ソーラーランタンが電気のないチェパン村の灯火となり、道となっているようで、本当に感動しました。

その後、それぞれが手に持ちながら家に帰るヒカリが、山の中で動き続けていました。

第3回目を迎えられたのも、こうして応援してくださる皆様のおかげです。



HIKARI SONG GIFT ダイアリー

2018年4月22日 チェパン村より下山

チェパン村より下山の日の出来事。

その道中、フェスティバルに来ていた、村のおじいさんの家の前を通りました。
家の隣にある牛小屋の茅葺き屋根に、フェスティバルでプレゼントさせて頂いた、ソーラーランタンが乗っていました。

実際に使っている姿を見て、嬉しくて感動しました。

私にとっても、おじいさんにとっても、ソーラーランタンは、ただのものではなく、思い出の詰まったものになっているような、そんな気がしました。



HIKARI SONG GIFT vol.3を終えて

その先にあるもの

みんな違って、みんないい。

以前は、なんとなくこの響きのいい言葉を受け入れていました。しかし、今回この言葉を考えさせられる機会になりました。

第3回目のHIKARI SONG GIFTは、少数民族の住むチェパン村で行われました。日本から物を寄付するということは、村の土着の文化に影響を与えてしまうのではないかとの懸念がありました。

何がネパールにとって良い事で、何が悪いことか。ネパールを尊重できているのか。そのことについて考えることから始まりました。悩み、そして決意し、私はネパールへ行きました。

私はネパールへ行こうと決意した時、ソーラーランタンや、双眼鏡を寄付すること、音楽を伝えることに迷いはありませんでした。私は日本からの気持ちを届けたい、笑顔を見たい、きっと笑顔になってくれるという意味を持ってネパールへ行きました。その一歩が踏み出せたのは、そのような意思があったからです。つまり、みんな違って、みんないい。それだけでは前に進めなかったと思います。

星空授業では、双眼鏡を通して見る村の星空の景色に子どもたちは目を輝かせてました。双眼鏡をなかなか離さない子もいました。また、村で初めて行った音楽フェスティバルでは、慣れない村の方々は、はじめはどうして良いかが、わからない様子でしたが、徐々に心を開いていくのがわかりました。

そして、音楽を通して、一緒に歌ったり、ダンスをするまでになりました。

今回の活動を通じて今後も大切にしたいテーマが生まれました。それは、お互いにはない部分は補い合っていけばよいということでした。

私が慣れないネパール語を使い、歌っていると、村の方々が一緒に歌って助けてくれました。その時の一体感はこれまでにない、とてもあたたかな時間でした。違いを越えて、誰かのために何かしたいと思う時に、愛が生まれると体感しました。それが、私の目指している平和に繋がることなのだと本気で思いました。

みんな違って、みんないい。

違いを受け入れることだけに終始すれば、そこから違いを越えての発展はないと感じました。先代たちが作ってくれた道のように、道を切り拓いてゆくには、お互いを尊重することを前提に、その先に強い意志が必要なのだと思います。そしてそこから行動へと変わり展開してゆくのだと思います。

HIKARI SONG GIFT vol.3を終えて

世の中を変えるのは「ばか者」「よそ者」「若者」

宮原巍(みやはら たかし)さんは、ネパールに50年以上住み、さまざまな形でネパールに貢献され、関わりをもっている方です。偶然、彼のホテル(Annapurna view hotel)でお会いすることができました。

以前、講演会を聴かせていただいた時、宮原さんが、世の中を変えるのは、ばか者、よそ者、若者だ。と仰っていて、その言葉に共感したことなどを、お話をさせていただきました。

「よそ者」だから出来ることがある。

ネパールのチェパン村に当たり前にあった大自然、星空の素晴らしさは、ある意味で「よそ者」の私だからこそ伝えられたことだと感じました。

違いを越えようとするとき、そこに愛があると思うのです。その人をわかりたいと思う。愛したいと思う。

今回、私は、そこにいる人々が毎日目にしているもの、それが実はとても素晴らしいものなのだ、ということを伝えたかったのです。

私自身、その素晴らしさを体感したく、そこにいる方々と共にいました。

チェパン村で行った星空授業、そして星空ライブ。忘れられない輝きに満ちた時間となりました。

HIKARI SONG GIFTのテーマは、we live on the earth.このことをこのプロジェクトを通して、挑戦をさせていただいています。今回、少数民族チェパン族の住む村で過ごした時間は、私にとって糧になりました。

山から降りた時、車の音に違和感を覚えました。ヤギや牛や鳥や虫の音が当たり前だった日々だったからです。

だからといってそれが良いとか悪いとかでなく、この活動を通して、どんなに違いがあっても繋がれることをまた確信した3回目のHIKARI SONG GIFTとなりました。

今回のHIKARI SONG GIFTは、たくさんの笑顔と会えて、おかげさまで大成功だったと思います。

また、このフェスティバルは、現地の方々のチカラなくしては出来ませんでした。

ネパールの仲間みなさまダンニャバード。そして、応援してくださった、参加してくださったみなさまありがとうございます。

最後に、宮原巍さんは、「ネパールをダメにしてるのは支援だ」とおっしゃいました。その言葉に動かされ、その言葉を胸にがんばろうと思っています。

HIKARI SONG GIFTご協力・ご参加のお願い

HIKARI SONG GIFT は来年も開催予定です。

※このフェスティバルは、設営・音響などすべて、現地ネパール人スタッフに依頼

※このフェスティバル必要経費以外(弊社スタッフ・日本人ボランティア渡航費等)は自己負担

※チャリティフェスティバルのため、入場料はフリー

確実に届く支援です。

引き続きソーラーランタンも集めていきますので、ご協力、ご参加をお願いいたします。

ゆうちょ銀行

口座名:ヒカリソングギフトネパール支援の会(ヒカリソングギフトネパールシエンノカイ)

店名:018(ゼロイチハチ)

預金種目:普通口座

口座番号:9399389

ご協賛

Saino Nepal(Nepal)、赤塚雄三さん、A-FILES、三菱製紙販売株式会社、

アイリスオーヤマ株式会社、ユーディーエヌ合同会社、山田家、久保田賢次さん、とんとん

ご後援

宮城学院女子大学、NPO法人 日本・ネパール文化倶楽部、公益財団法人 仙台観光国際協会、株式会社イチイ、株式会社ハートス

Special Thanks

野津さん、佐々木賢一さん、富永先生、山形先生、優子さん、豊さん、

監督、マネージャー、下田さん、板橋さん、And you

NagarikdainikNews

Photo by Atsushi Kishimoto、Yuko Sano、Aoi Sano

Video by Raju man maharjan、Atsushi Kishimoto



きっと会えるよ 会える場所はShanti

HIKARI SONG GIFT 公式テーマソング
「千の灯火～Shanti～」より



この小冊子の売上はHIKARI SONG GIFT運営資金に活用させていただきます。

HIKARI SONG GIFT vol.3 価格¥500

発売元:合同会社AOIFACTORY